

介護老人保健施設 ライフサポートひなた

砂金 実歩(施設CM)・前田 美恵子(看護師)・久保川優(理学療法士)

功 績	近隣にお住まいの高齢男性が、施設に面した道路で膝をついて倒れていたところを、利用者ご家族と連携して救護し、その方が必要とする医療処置を受けられるまでのつなぎ役として、重要な役割を果たした功績
推 薦 者	経理 浦 美智子
推 薦 理 由	予期せず出来事に際し、医療職・介護職としての基本動作を迅速に行い、連携して救護・搬送につながられたことで、地域住民の深刻な健康危機を回避できました。ひなた職員のふるまいとして誇らしいものだった為、理事長賞に推薦させていただきました。

内 容

涼しい気候から急に気温が上がり、若い人でも体調管理が難しいと感じられた5月中旬のお昼過ぎ、面にみえた利用者のご家族より、施設前の道路でヒトが倒れている、と報告がありました。立ち上がれない男性を、理学療法士の久保川が起こして車椅子に移し、涼しい施設内に救護、ケアマネジャー砂金と看護師前田が、本来業務を中断して実際のケアにあたりました。男性は、倒れた時に負ったと思われる膝の擦過傷があり、かろうじて名前を伝えることはできましたが、意識がもうろうとして住所や電話番号などを言うことができませんでした。看護師の前田は、見知らぬ男性に対しても、日頃の業務と同じように、親身になってバイタルチェックし、男性の高熱に対しては血管部の冷却をし、擦過傷に対しては消毒・軟膏塗布の処置をしました。かたわらで、ケアマネジャーの砂金は、地元警察に通報し、身元の分からない男性の保護を要請、ほどなくして到着した警察官らに経緯の詳細を伝えました。男性は、立位がとれず、会話もしどろもどろで、高熱もあったことから、警察官が救急車を呼び、近隣の病院に搬送されました。

その後、10日ほどが経ち、このできごとも忘れかけていた頃、すっかり元気になられた男性とご家族が施設を訪ねてこられ、搬送以降の経過を話してくださいました。男性は、運ばれた医療機関で肺炎と診断され、一週間ほど入院されたそうです。発見が遅かったら深刻な事態に発展した可能性があったなかで、幸いにも別人のように元気になって退院されました。顔色もよく、会話の受け答えも見違えるほどスムーズになっていました。

「たまたま倒れた場所がひなたの前の道路だったおかげで、職員のみなさんに命を助けられました。」と、ご家族は看護師の前田の手を握って感謝されましたことから連名にはなりますが、推薦させていただきます。